

水神様信仰

水神(すいじん、みずがみ)は、水(主に淡水)に関する神の総称である。

農耕民族にとって水は最も重要なものの一つであり、水の状況によって収穫が左右されることから、日本においては水神は田の神と結びついた。田の神と結びついた水神は、田のそばや用水路沿いに祀られていることが多い。

鬼太郎も水神にはかなわなかったと記述があった。



木曾川にある水神社

＜大倉新田の水神様信仰＞

大倉新田は大倉の中でも水に最も関係のある地域だけあって、昔より水神様信仰が大事に受け継がれている。

水神講と呼ばれる祭りが毎年2月初旬の日曜日に開催され、祭り当番宅ではご神体に飾り付けを行い、祭り用のぼりを立てる。また、御神酒と赤飯、鮎の腹合わせといった神様への奉納料理を準備する。講のグループは十数軒単位で構成されており、グループの中の祭り当番宅で料理をいただき、御神酒を回し飲む。祭りの最後はご神体を廊下から送り出し、来年の祭り当番に引き継ぐ。



写真でみる大倉風土記 (第8回) 佐原周辺



【昭和26年 東京大相撲佐原春場所】

横綱羽黒山一行が佐原に来た時は大変な人気であった。一行の一門力士は約60名で、東京大相撲佐原春場所と銘うち大盛況であった。



【昭和10年 駅前は大円タク時代】

シボレー、フォードを揃えて駅前広場は活気に満ちていた。手軽さが受けて、花街の客に人気があった。



【昭和22年 C58型機関車】

佐原駅を出ようとするのぼり列車。貨物列車、旅客列車のどちらも引けるので、万能選手の名がぴったりだった。

●第14号に掲載しました「大倉梨」の創始者の氏名に誤りがありましたので訂正させていただきます。
誤：多田治郎左衛門 ⇒ 正：多田治郎右衛門

問い合わせ先
協議会の支援をしています

大倉まちづくり協議会
佐原市民活動支援センター 電話 50 - 1213